Ⅰ これまでのあゆみ

1 上水道事業・工業用水道事業

旧五市時代の水道事業

北九州市の水道事業は、旧門司市が明治44年に一部の給水を開始して以来、100年以上の歴史を有している。その間、若松、小倉、八幡、戸畑の旧各市においても、それぞれ都市の発展に伴い、相次いで水道事業を創設し、独自経営で市民の水需要に対応してきた。

旧門司市の水道事業

明治22年、特別開港場に指定され、早くも国際港都として繁栄してきた旧門司市は、明治32年、旧五市の中で最初に市制が施行されたが、地勢上、用水に乏しく毎年のように伝染病が流行した。このため、上水道の布設の必要に迫られ、明治42年の福智貯水池を始めとして、導水、浄水、配水施設等の建設に着手した。その結果、明治44年に一部給水を始め、翌45年には、全面給水を開始した。その後、市勢の発展に伴い、第1期から第4期までの拡張、改良工事を行い頂吉、松ヶ江の貯水池等が造られた。

旧若松市の水道事業

明治中期まで一寒村であった旧若松市は、洞海湾という天然の良港に恵まれ、さらに筑豊炭田に近い位置にあったため、必然的に石炭搬出の中心地として栄え、大正3年には市制が施行された。しかし、半島的地形と用水の不足から、それ以上の発展は望めなかった。また伝染病や火災による被害も少なくなかったため、旧戸畑市牧山に浄水場を築造し、洞海湾を横断する海底送水管を布設して、明治45年に給水を開始した。その後、2期の拡張工事を行い菖蒲谷貯水池、畑谷浄水場、藤ノ木浄水場が建設された。

旧小倉市の水道事業

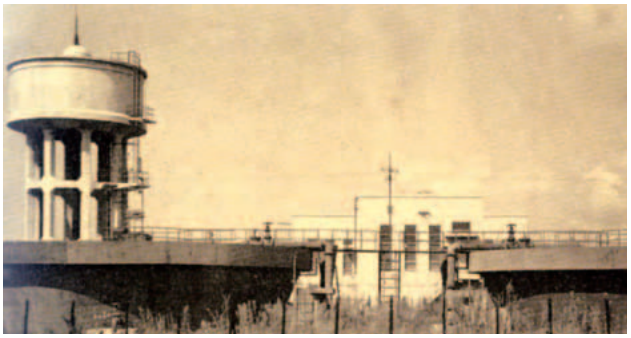
小笠原藩の城下町として栄えた旧小倉市は、明治24年の鉄道開設、明治31年の旧陸軍第12師団司令部の設置などにより商都、軍都として発展し、明治33年、市制が施行された。人口の増加につれ、水道の必要に迫られた旧小倉市は、大正2年に道原貯水池及び浄水場を築造し、同年5月に給水を開始した。その後、第1期から第3期までの拡張工事を施工し、葛牧、今町、城野の各水源地を設けた。

旧八幡市の水道事業

明治34年、わが国初の製鉄所が操業を開始した旧八幡市は大小の関連企業ができ、一大工業都市となった。大正6年に市制が施行されるに至った旧八幡市は、人口増と企業発展により、山ノ神浄水場を建設し、八幡製鐵所の河内貯水池と製鐵所遠賀川送水管からの分水を受けて、昭和5年から給水を開始した。その後、3期までの拡張工事を施工し、山ノ岬浄水場、畑貯水池を竣工した。

旧戸畑市の水道事業

漁村であった旧戸畑市は、隣接の旧八幡市に製鉄所が起業されたことから、関連工場が次々と建設され、工都として発展し、大正13年に市制が施行された。当時は、まだ若松から給水を受けていたが、この状態を解消するため、昭和6年に大谷浄水場を築造して給水を開始した。その後、拡張工事を施工し、大谷浄水場、船舶用水、工業用水の施設増強を行った。



旧小倉市水道城野水源地

戸畑市明治一丁目配水管布設工事